

# 世界 AIDS・DAY 記念礼拝



日時：2007年12月2日（日）  
午後5時

場所：牛込聖公会聖バルナバ教会

日本聖公会東京教区人権委員会

日本キリスト教団新宿コミュニティー教会

## じんけん瓦版 第27号

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

発行日：2007年11月15日

### 隅に追いやられた人たち

バーンサバイ 青木恵美子

2002年7月、タイのチェンマイにHIV感染者とAIDS患者のためのシェルター「バーンサバイ」が開設されました。

HIV感染者やAIDS患者を家族・友人・地域社会が受け入れ、共に支えあうことができれば、病気を抱えながら前向きに積極的に生きていく力が生まれます。ともに生きていける社会になるように、バーンサバイで活動する日本人スタッフの青木恵美子さんから寄稿して頂きました。

「バーンサバイ」をディレクターの早川さんと一緒に立ち上げて、もう五年が過ぎました。私は深く考えもせず、「チェンマイに行くなら、エイズ患者の為のシェルターを立てたら」という友人の声に乗ってチェンマイで古いタイスタイルの家を一軒借りたのでした。

エイズ患者さんを受け入れる為にどれくらいの費用がかかるか、ということも何も考えてはいませんでした。最初の患者さんから重症患者さんで、彼女は入院して病院で亡くなりました。すごい

費用がかかったので、私も早川さんも慌てました。それから五年の間に沢山の患者さんを受け入れ、亡くなった方も二十人近くになりましたが、いつも必要な費用と働き人が与えられてきました。

バーンサバイに入ってくる患者さんは社会の隅に追いやられた方ばかりです。エイズである前に問題をかかえています。タイはエイズに対する差別は少ないですが、階級差別の強い国です。スラムに住んでいたり、野宿している人、タイ国籍を持たない人、山岳  
(2ページへ続く)

(1ページより続く)

民族は周りのタイ人から蔑視されています。軽くあしらわれています。彼らはその度に深く傷つきません。大部屋に入院している患者さんの世話をしながら、何度もその蔑視を共に受け、彼らの傷の深さを目のあたりにしました。

この頃つくづく思います。神がそんな隅に追いやられた彼、彼女を守るために、バーンサバイを立てられ、備えられたのだと。私の前に道はありませんが、振り向くと、彼らと共に歩んだ、神が備えてくださった道があります。

~~~~~  
青木恵美子さんは、自由メソジスト教団の牧師で、20年前に日本キリスト教婦人矯風会が設立した「女性の家HELP」で奉仕されていました。その後HELPをやめ、大阪で移住労働者問題にかかわった後、タイに移住し代表の早川文野さんと一緒に2002年7月「バーンサバイ」を設立、現在に至っています。  
~~~~~

### 「先住民族の権利に関する国連宣言」

9月13日、歴史的な国際人権文書が国連で採択された。賛成144・反対4(オーストラリア・カナダ・ニュージーランド・米国の先住民問題を抱える国ばかり)・棄権11という結果。日本政府は賛成票を投じたものの、条件をつけており、アイヌ民族や沖縄・琉球民族の「国際法の主体」としての権利保障への道は険しい。

### 「日本版US-VISIT」開始

昨年、「テロ対策」を名目とした「日本版US-VISIT」導入が決定され、今年11月20日に施行されます。これは、外国人に対して入国・再入国のたびに指紋と顔写真情報の提供を義務づけるもので、その生体情報はほぼ生涯に渡って保存され、要請があれば他の機関とも共有されます。これによって、「テロ対策」よりも外国人の在留管理と監視の強化に利用されると危惧されています。

### 尾松純子 語りの世界

「オフェリアと影の一座」(ミヒャエル・エンデ作)

「ろくでなしのサンタ」(浅田次郎作)

ヴァイオリン独奏賛助出演 天野英彦

日時:2007年12月15日(土)18:00開演(17:30開場)

場所:牛込聖公会聖バルナバ教会礼拝堂

入場料:前売り2000円(当日2300円)

主催 おはなし夢夢「夢企画」

共催 日本聖公会 東京教区 「障害者」関連活動連絡会

日本聖公会 東京教区 牛込聖公会聖バルナバ教会

問合せ 夢企画 天野042-958-5861 酒井042-394-5599

### 「東京同宗連」第28回研修会

#### 「ハンセン病差別問題」について学ぶ

日時:2007年12月5日(水)~6日(木)

研修先:国立療養所「多摩全生園」・国立ハンセン病資料館

内容:一日目 「語り部」佐川修さんのお話

映画上映「新・あつい壁」

二日目 国立ハンセン病資料館見学

問合せ・申込み先 03-3316-7996(打田)/11月23日(金)締切

### 中山節夫監督作品 映画「新・あつい壁」

劇映画「新・あつい壁」は、ハンセン病患者であることを理由に法の前の平等を踏みにじられた50年以上も前の事件を通して、それを許した当時の社会の意識が今日どのように変わったのか、そして何が変わらないのかを描きました。(中山節夫監督)

・上映 11/17~12/7 シネ・リーブル池袋(03-3590-2126)

・特別鑑賞券 一般1300円(当日券・一般1800円・大高生1500円)

申込み 「新・あつい壁」東京上映委員会 03-5827-2641